



ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK 通巻番号572号

発行 令和元年11月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子



布の本製作・普及と教科書への掲載

ふきのとう文庫の布の本製作は一九七五年、アメリカの主婦が作った「ピージーBOOK」を参考にして製作した「ピーだまいくつ?」から始まりました。

その後、改良を重ねて現在の「ピーだまいくつ?」ができました。当初、布の本は障がいのある子どものために作られましたが、障がいの有無を問わず、小さい子どもから大人まで、だれもが楽しめる優れた本として認められてきています。

布の本は布のやわらかさ、暖かさ、優しさを感じられる美しい本です。スナップ、ボタン、マジックテープ、ひもなどを使ってパーツをはずしたり、つけたりして自由に絵を動かして遊びます。一針一針、手作業で製作しますので、すべての子どもの成長段階や個性、興味に対応した本を作ることができます。すべての子どもに本の喜びを! の理念の下、製作されてきた布の本は、現在、九八種類、六九五冊あります。

このたび、子どもたちに人気の布の本「ひよこひよこ」が教育出版の中学国語の教科書に掲載されることになりました。

「ひよこひよこ」はおかあさんどりがひよこたちを捜していくお話です。動物や花、身の回りの物に「うちのピーちゃんたち知りませんか?」と聞いていきます。やつ



ふきのとう文庫理事 出村厚子

と、三羽のひよこたちが見つかり、おかあさんどりはほっとします。そして、あたたかな大きな羽でひよこたちをつつみます。おかあさんどりのひよこたちを大切に思う深い愛情が感じられます。『ひよこひよこ』は全九ページの布の本ですが、この中から「表紙」、「金魚と金魚鉢」、「おかあさんどりとひよこ」の三ページが教科書に紹介されます。布の本「ひよこひよこ」には点字付きもあります。

多くの中学生にふきのとう文庫の布の本を知ってもらうことはとても嬉しいことです。

布の本はふきのとう文庫子ども図書館で借りることができますし、全国に郵送貸し出しもしています。ぜひ、みなさんも布の本を手にとって、たくさん触れて遊んでみてください。

上半期を終えて

左記の表を見て頂きますと、九月末での収入合計は目標の五五%で、期初早々二百万の大口寄付金があった昨年とは比べようがなく、一昨年の実績に匹敵するところです。

一方支出については、昨年並みですが一昨年より百万円多くなりまして、収支の差額は三六万円と少なく、かなり厳しい状況にあります。

原因としては、例年ですと寄付金または都度の助成金が百万円を超していますが、今年度は皆無状況でありまして、一月以降の決済資金が憂慮されます。

半面、布の本の新しいボランティアが稼働し始め、新作品の登場もあって事業収入が順調に伸びています。

	予 算	元年9月末	前年同月	前前同月
収入の部				
賛助会費	2,600	1,966	1,940	2,054
寄付金等	3,200	661	3,422	926
助成金	1,500	1,500	1,500	1,650
事業収入	2,390	1,200	819	757
雑収入	10			
合計	9,700	5,327	7,681	5,407
支出の部				
管理費	6,200	3,357	3,436	2,559
事業費	3,500	1,611	1,637	866
合計	9,700	4,968	5,073	3,825
収支差益	0	359	2,608	1,582

◆鹿児島県議員団の視察

八月二十九日、鹿児島県議会環境厚生委員会の皆さんが訪れました。福祉分野と林業分野を所管とする委員会です。北海道産の木材をふんだんに使った建築された当文庫の行政視察です。南日本新聞社の記者の方も同行していました。高倉代表理事から当文庫についての概要や取り組みについての説明が行われました。その後、質疑応答等があり、施設見学になりました。一階の図書館内をゆっくり見学し二階の作業室も見学しました。拡大写本の作業室では、色塗り等の技術に驚かれ、布の本作業室では材料などの種類の多さや制作の丁寧さに興味を示されていました。遠い九州からの行政視察で、札幌の当文庫のことに興味を持ってもらい、今後多くの人たちに知って貰いたいと思っています。



◆「アンサンブル・フラテ」演奏会

今年で四回目になる「アンサンブル・フラテ」による演奏会が六月二十五日に行われました。北大医学生を中心とする室内アンサンブルの皆さん

です。フラテは北海道大学病院や天使病院で入院患者さん向けの演奏会を行っています。音楽の力を通して病気の患者さんを慰め、励まし、元気づけたいとの思いで活動を行っている学生皆さんです。



バイオリン、フルート、イングリッシュホルンと楽器の紹介をしながら「バナナの親子」「おもちゃのチャチャチャ」などを演奏、みんな楽しく手拍子をしながらかき入っていました。またピアノの仕組みについて模型を使って教えてくれました。ホルンも登場します。迫力のある音で「のぼら」のしっとりした演奏です。みんなが参加した手遊び歌「グーチョキパー」では元気に体を使って表現していました。最後の「さんぽ」では全員で足踏みしながら歌いました。大人も子どもも一緒に本物のクラシック音楽に触れることが出来るイベントでした。

なお、この「アンサンブル・フラテ」は十月に円山にあるル・ケレスミュージアムホールでチャリティコンサートを開催し、チケット代金や寄付金を全額、当文庫に寄附していただきました。子どもたちの図書館の為に有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 🌸 霧のむこうのふしぎな町 (全3冊) | 相葉 幸子 作 |
| 🌸 あたしの声がすき | 渡川 浩美 作 |
| 🌸 ねこと友だち | いとう ひろし 作 |
| 🌸 野尻湖のぞう | 井尻 正二 作 |
| 🌸 おもしろ荘のリサベツト | アストリット・リンドグレーン 作 |
| 🌸 日本の歴史別巻 歴史まるわかり図鑑 (全2冊) | 山本 博文 監修 |
| 🌸 日本の歴史別巻 よくわかる近現代史 (全2冊) | 山本 博文 監修 |
| 🌸 きょうはマラカスのひ | 樋勝 朋巳 作 |
| 🌸 二日月 (全3冊) | いとう みく 作 |
| 🌸 魔女モティ (全4冊) | 相葉 幸子 作 |
| 🌸 とねりこ屋のコラル (全3冊) | 相葉 幸子 作 |
| 🌸 バアちゃんのとびっきりの三日間 | 三輪 裕子 作 |
| 🌸 サンドイッチの日 | 吉田 道子 作 |
| 🌸 天の川のラーメン屋 | 富安 陽子 作 |
| 🌸 ハルとカナ | ひこ 田中 作 |

◆人形劇団「オペレ」公演

人形劇団「オペレ」が初めてやってきて七月二十八日に多目的ホールで公演しました。一九九九年結成の二人組でこの秋二十周年を迎えるそうです。札幌近郊をはじめ道内各地で上演しています。演目は人形劇「なかよし」。へびのシマちゃんときーちゃんのお話です。その後、パネルシアター「やおやさん」。やおやさんで売っているものが出てきたら大きな声で「ある！ある！」と掛け声をかけてください。そして人形劇「アレックとウィリー」です。レオ・レオ二原作のアレックスンダとゼンマイネズミがもとになっています。子ども達はネズミがどうなるのか興味津々に見入っていました。公演終了後にはワークショップが行われ、かわいいネズミの指人形作りを自分だけの友達を作っていました。

毎月、新しい拡大写本を作っていますが、今回は出来上がったばかりの本を一冊紹介してみます。『二日月』は「三人家族に可愛い赤ちゃんが誕生した。待ちに待った妹の誕生に小学生の姉は大喜び。しかし、妹は生まれる時の病院の対処のせいで障がいを負う。姉は自分と葛藤しながら、受け止めていく。周囲の反応や両親や自身の思いに向き合っていく」という話です。小学生向けの本です。二〇〇ページの、三分冊で作っています。



ふきのとう文庫のあゆみ 第三回

前号に続き、ふきのとう文庫のあゆみを布の本の進化と高倉新理事長に引き継いだ二〇〇四年前後から始めます。

十一 布の絵本の発展と理事長の交代

一九八二年から始まったふきのとう子ども図書館は、日曜と火曜の週二回、午前十時から午後三時までの開館であった。当時は、図書館というよりも、週四回の布の本・拡大写本の作製活動をメインとするものであった。優秀な制作ボランティアの育成を続けていき、その過程で出来上がった製作物を主に図書館という場を通じて活用し、ふきのとう図書館を広めていこうとしていた。

次々と布の本・遊具の新作が生まれていったが、その制作にはイラストレーターの上野美喜子さんと夫でデザイナーの上野秀一さんの力が大きくはたっていた。それらはシンプル・カラフルで可愛い独特のオリジナルな作品であった。既存の絵本からも布の本にするために、原本のイメージを損なうことなく、いかに縫製しやすい形にできるかを、きちんとした型紙のための作図、細工箇所やフェルト布の色の指示などもなされていた。それらが出来上がると、最初に試作縫製し、その結果を受けて縫製グループが作り上げるという行程

で多くの作品が生まれた。

当文庫は全くの私立文庫であり、公的補助はないのでその運営的な経済基盤はとても弱い。それを補うために、バザーや展示会で出来上がった布の本・遊具・テキストなどの販売を行った。そこで蓄えられた内部留保資金が後に、ふきのとう図書館の移転・新築へと繋がっている。また、札幌馬主協会からの大きな支援も施設の増改築に役立てられていた。

前理事長の小林は様々な活動を一手に引き受けていたが一九二六年生まれということで、高齢になり、さらにはくも膜下出血などを発症し徐々に活動が制限されていった。そんな中、当時理事だった現理事長の高倉が副理事長となり、仕事を代行するようになった。二〇〇二年頃には入退院を繰り返す小林は、高倉に後を託し二〇〇四年には高倉が二代目理事長に就任した。その後、各分野（図書、布の本製作、拡大写本製作）の代表が理事となり、定例的な運営会議を開催できるようになって、現在に至っている。この運営会議での重要検討事項であった公益財団法人化についても、様々な問題をクリアしながら二〇一一年に北海道の認可を受けた。



十二 図書館の新築移転事業

一九八二年六月に西区平和に開館したふきのとう図書館は、二十一世紀に入ると長年の利用等で経年劣化が激しくなっていた。また、設置が西区の山間に近い場所ということで、図書館利用の立地条件は良くなかったうえに、少子化の影響もあったのか利用者は伸びないままだった。そこで運営委員は図書館の新築を考えるようになっていた。

高倉理事長はそんな時期に相続で四〇五坪の土地を得ていたが、その三分の二を図書館用地としての寄付を考えていた。場所は中央区北六条西十二丁目（現所在地）であり、札幌駅から西へ一キロの中心地である。昔から「博士町」と呼ばれていた文化の薫り高い一画であった。運営会議での細部の検討（資金面・運営面など）を経て、二〇一〇年に理事会・評議員会で移転決議がなされた。必要な資金は一億円を超えたが、前図書館の売却や、小林前理事長が残してくれた内部留保資金、さらには林業促進道産材活用の国庫補助金、移転のための募金などで計画が実行されることとなった。

前図書館と比べて構造・面積も同じくらいのものが出来上がったほか、多目的ホールも付加することができた。

十三 ふきのとう図書館移転後の状況

二〇一四年二月に新図書館は様々な問題乗り越えながら完成した。布の本、拡大写本の製作活動はほとんど移転前の方式を継承して行うことができた。図書館は、それまでの二日の開館を四日に増やしたことや都心にあることで利用者の数は倍増した。そのため、図書ボランティアも三倍近く必要とし、補充がはかられた。現在の開館日は日曜から水曜までである。また、開館時間も二〇一九年から正式に午前九時三十分から午後四

時までと延ばすことになった。さらに、多目的ホールを設置したため、「うたう会」「おはなし会」「手づくりあそび」など子どものための催しものを定例的に行うことが出来ている。

全国的にも珍しい作業室を常設する子どものための図書館は市内外はもとより道外からの視察も多く、遠くは沖縄、九州などからも見学にきている。市の中心部に移転したために知名度も上がり、運営の考え方に共感した大口の寄付者にも恵まれ、現在に至っている。

国庫補助金取得の施設として五年間は入館人員の計画目標を課せられることになり、その達成に向けてイベントを行ったり、リピーターを増やす努力を行ったりしてきた。その期間を二〇一九年春にクリアし、これからは当文庫の独自のカラーが出せる活動にも力を注ぐことが出来るようになった。

十四 今後のふきのとう文庫

移転から五年が経過し地域に定着したふきのとう図書館ではあるが、目新しさも少なく少子化の影響もあり、来館者に減少傾向が見られる昨今である。来館者数がすべてではないにしても、施設の良さを多くの人に知ってもらい新たな利用者を増やす努力をしようとしている。

賛助員にも長年お世話になっているが、その高齢化により会費も徐々に少なくなりつつある。当

文庫運営の財源が賛助費によるところが大きいので定期的納入者増と、新たな賛助員の加入も現在の課題となっている。

また、長らく制作ボランティアをやっている方々の高齢化も問題となってきたが、最近では若いボランティアの加入も増え、その指導も行っている。

現在の当文庫の進み方に大きな問題はないが、色々な工夫も考えて行かなければならない時代に入ったとも言える。今、最も期待されているのは、日本で初めての布の本の発祥とその歴史を見ること出来る「布の本記念館」の開設である。

来年度に当文庫の五十周年記念の展示会を開催する予定であるが、その中には布の本・拡大写本の歴史的な変遷を見せるコーナーを作ろうとしている。それが「布の本記念館」の第一歩となるように進めていきたいと思っている。



書棚より

加岳井広：珍しい名前ですが、「かがくいひろし」と読みます。絵本作家です。

かがくいひろしさんは、一九五五年生まれ。長く養護学校などの先生をされておりましたが、二〇〇五年五十歳の時に『おもちのきもち』で講談社絵本新人賞を受賞。この作品で絵本作家としてデビューしました。そしてわずか四年。ちょうど今から十年前、一五冊の絵本を残



ふきのとう子ども図書館で所蔵するかがくいひろしさんの絵本の一部。その他はただいま貸出中。

して二〇〇九年五十四歳の若さで亡くなりました。とても残念です。

残された一五冊の絵本の出版年を見てみると、デビュー三年目の二〇〇八年に五冊、二〇〇九年に六冊発行されており、短期間に精力的に活動されたことがわかります。

亡くなられた後、二〇一六年に先の講談社絵本新人賞受賞の前年に佳作入選した『うめじいのたんじょうび』が出版され、また未見ですが雑誌「イラストレーション」二〇一〇年三月号の付録に『ぞうきんがけとぞうさんがけ』が掲載されているそうなので、全部で一七作品を残してくれたことになります。

リズムカルでとぼけた味わいのユーモアあふれる絵と文が魅力です。どれをとってみても、かがくいさんの温かな人柄が伝わってくるような作品ばかりと言えるでしょう。

残念ながら二・三冊未見の絵本もありますが、代表作は何と言っても『だるまさんが』『だるまさんの』『だるまさんと』（二〇〇八年・二〇〇九年・ブロンズ新社発行）のだるまさんシリーズでしょう。

ふきのとう子ども図書館には、絵本として出版された作品一六冊のうち一四冊所蔵していますが、とりわけだるまさんシリーズは貸出しも多い大人気の絵本です。



毎週水曜11時からのミニお話会。この日は大型絵本『だるまさんが』を読みました。

また、毎週水曜十一時からは絵本二冊と紙芝居一点のミニお話会を行っています。そこでもだるまさんシリーズには子どもたちの楽しい気な反応が返ってくる読み手にとっても嬉しい絵本となっています。

だるまさんシリーズは、普通の絵本は大きさ二十cm弱の小さな絵本ですが、三冊とも大きなサイズの大型絵本も所蔵しています。

だるまさんシリーズは親子で笑顔になれる何だかほっこりする絵本です。（図書係・金山）

2019年7月以降 賛助会費納入一覧

井村 裕夫	岡田有利子	小野 祐子	亀井 健二
切金 浩幸	北守 昭	久下 尚	久保田 亨
黒木 克巳	河野 智美	古賀 恭子	小竹 勝
小松 友子	坂井 淑子	佐々木順子	神内 紀子
神保 和子	杉浦 正人	鈴木 葉子	諏訪部千秋
高倉 聖哉	武井 昭也	田辺 敏子	友岡 和彦
沼 嗣雄	橋本真知子	羽磨 尚實	濱崎 京子
林 規子	早勢 敏明	原田 宏子	福島美恵子
福田フミノリ	藤居 襄	古谷 次郎	前田 知乃
村上 禮子	村田 真理	森永美恵子	安田 茂
山内美知子			
岩見沢友の会			
学童保育所 えぞりすクラブ			
布の絵本 のんの			

2019年7月以降 寄附金納入一覧

飯村 俊幸	和泉 尚吾	植竹 俊光
大野 信道	片平 静夫	久保田 亨
斉藤 迪子	佐藤 功	高原とみ子
野田 龍一	村上 禮子	齋藤 寛
(株) トーハン		
生活クラブ生活協同組合		
有限会社 読書工房		
おと工房 ぱりま		

2019年7月以降 寄贈一覧

7月2日 学研	児童書	1冊
7月6日 童心社	絵本	3冊
7月10日 図書館ネットワークサービス	児童書他	12冊
7月23日 学研	児童書	1冊

行事一覧

7月30日	後藤 正憲	児童書	1冊
8月1日	P H P 研究所	書籍	2冊
8月13日	学研	児童書	1冊
8月18日	中本 名草	絵本	18冊
9月2日	コアレックス(株)	トイレットペーパー	
9月6日	童心社	テッシュペーパー	
9月15日	童心社	絵本	1冊
9月22日	塩谷 滝衣	絵本	2冊
9月24日	学研プラス	フェルト	
9月29日	山本 好枝	絵本	1冊
10月6日	童心社	座布団	
10月7日	佐藤 典子	絵本	1冊
10月16日	札幌友の会	ハロウィン用かぼちゃ	
10月18日	童心社	羽子板	
10月18日	学研	絵本	1冊
10月23日	齋藤 容子	児童書	1冊
10月25日	童心社	絵本	41冊
10月27日	福田 都代	児童書	1冊
		洋書	8冊
7月5日	(ほっとたいむ)		
7月6日	(影絵紙芝居)		
7月7日	第2回 小学生のための語りの会		
7月9日	運営会議		
7月14日	第6回 うたう会		
7月19日	(ほっとたいむ)		
7月21日	第6回 おはなし会		
7月28日	人形劇団「オペレ」		
8月4日	第7回 うたう会		
	北海道教育大学・社会主事講習		39名

賛助費、寄附、寄贈ご芳名、行事一覧

ご支援ありがとうございました。



—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セッ	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セッ	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セッ
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK このいろいろなに	200円	3320円		むし		2230円	遊具	やさしいセット(8種)	なし	600円
			3850円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
13	のりもの だれのうち	200円	1620円		さかな		1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
			3320円		わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円
14	Greeting おやつ	200円	3030円		ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円
			1720円	新作	ばあ!	なし	2200円		のりたいたな	なし	1600円
15	おかあさん どうぶつ	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円
			1820円		おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円

2019年8月1日より、材料等の高とうによる材料セット価格の改定をいたしました。

「漢字の本」の販売

拡大写本グループでは、一九九二年から小中学校の教科書の拡大写本も徐々に作りましたが、二〇〇四年には「漢字の本」として大きな文字の、書き方付きの本を作りました。A五版で学校で習う漢字をほぼ網羅しました。小学校版は学習指導要領にある学年別漢字配当表に基づき、中学校版は、常用漢字表から教科書出版会社が選んだものに基づいています。



弱視の児童生徒はもちろん、目の不自由な大人の方にも役立つ本となっています。これからの入学祝いなどのプレゼントとしても有効なものです。各学年別にあり、一冊千円となっています。是非、お求めください。お問い合わせは、お電話、FAX、メールでお願いします。

◆ふきのとう文庫にご支援を◆

今号にも多くの方からの賛助費、寄附などの支援者のご芳名を入れさせていただきました。いつも温かく見守っていただいていることに感謝し、厚くお礼申し上げます。
ご存じの通り、当ふきのとう文庫は、私立図書館として運営していることから、公的な支援が全くなく、皆さまのご支援とボランティアの活動で成り立っています。西野平和から移転してきて早、五年が経過し順調に運営しているところではあります。財政的基盤は弱く、毎年の収支計画も不安定になりつつあり、内部努力を推し進めても子どもたちが楽しめる本を揃えることが滞ることもなかりかねません。どうか、更なるご支援をお願いいたく、文庫だよりの一部を使い、お願いする次第であります。

あとがき

西野平和から移転して丸五年が経った。地域に定着した感があるふきのとう図書館ではあるが、当初のもの珍しさから入館者は減り、今年に入ってから全体的に微減している。子どもたちにとって価値ある施設だと自負しているからには、もっと多くの人に知ってもらい利用してほしいと思う。
本来であれば移転五周年のイベントなどを催し、更なる利用者増を図るところではあるが、来年度は小林前理事長がこの活動を始めてから五十一年の区切りの年になり、そこを新たな展開の時と位置づけ進めていきたい。
今年度はそのためのプロジェクトも動き出している。更なる工夫・努力で、ふきのとう図書館を盛り上げていき、その報告をこの文庫だよりで伝えられたらと思っています。(野田 記)

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高 倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和元年11月10日 発行
毎月10日発行一部100円(維持会費に含む)

昭和48年1月13日 第3種郵便物承認
HSK 通巻572号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細 川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。